アンバサダーライダー・髙田茉莉亜と佐々紫苑の

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2018 年 10 月号掲載

馬耳蘭風 ―オランダ奮闘記―

佐々紫苑
Shion Sassa

明松寺馬事公苑所属

◆佐々紫苑
（さっさ・しおん）
1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。大学では４年連続で学業優秀賞を受賞。昨年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

アジア大会で個人、団体ともに金メダルを獲得した総合馬術！　総合馬術は馬場・クロスカントリー・障害の３種目を１頭の馬とともに戦い抜くハードな競技ですが、「総合は４種目だ」といわれることもあります。その４つ目の種目は、ホースインスペクションと呼ばれる馬体検査のことです。馬に無理をさせることがないように、獣医師と審判員が馬の体調や歩様をチェックします。少しでも異常があればその場で不合格となり、その後の競技には参加できません。

競技期間中、昼夜問わず馬のケアをしていくなかで、ちょっとした変化も見逃さないようにするためには、日頃からのコミュニケーションが大切。私は「毎朝、馬が厩舎を出る最初の１歩に馬の調子が表れる」と教わりました。今大会で個人金メダルを獲得された大岩選手は、「きょうはなんだか元気がないな」といったような違和感を見逃さないようにしている、と以前おっしゃっていました。憧れの先輩のこの声を大切にして、私は毎日、馬と接しています。

ホースインスペクション待ちの緊張の会場（本人提供）

Let's enjoy Dressage

髙田茉莉亜
Maria Takada

アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆髙田茉莉亜
（たかだ・まりあ）
1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の４連覇を達成した。昨年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

10月のドイツといえばOktoberfest！（オクトーバーフェスト、ミュンヘンで開催される世界最大規模のお祭り）こちらでは、Dirndl（ディアンドル）という伝統的な民族衣装を着てオクトーバーフェストに参加します。週末に街へ繰り出すと、この衣装を身にまとった人たちを見かけます。

ということで、衣装にちなんで、今回は馬場馬術競技の正装を紹介します。馬場馬術競技は審判員による採点競技であるため、人馬ともに正装で参加する決まりです。選手の正装の一番の特徴は、やはりシルクハットとえんび服。最近では安全性を考慮して、シルクハットではなくヘルメットの着用も推奨されています。オリンピックなどで実施されるグランプリ課目のような高いクラスではえんび服を、低いクラスでは上ラン（じょうらん、ショージャケット）を着用します。そして、ネクタイやアスコットタイを締めることも忘れてはいけません！　ヨーロッパでは黒、紺だけではなく、茶色やグレーのえんび服を着こなす選手もいてとてもかっこいいです。競馬場では誘導馬のライダーがえんび服や赤い上ランを着ている姿を見ることができると思いますよ。次回は馬の正装についてお話しします。

写真提供＝日本馬術連盟

※Dressage＝馬場馬術